

令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	手づくり農道路盤整備等事業
事業主体 (連絡先)	野沢温泉村 (観光産業課 坂井田浩史)
事業区分	①地域協働の推進に関する事業 ⑥一イ農業の振興と農山村づくり
事業タイプ	ハード
総事業費	794,448円 (うち支援金: 529,000円)

事業内容

農業従事者の高齢化による農用地の荒廃地化を防止するため、地域住民が自らの労力で農道路盤整備等を行い農村景観を守っていかうとすることは、自立への第一歩であり、村は地域住民の自立を促す契機を図ることを目的に舗装工事等に係る原材料(砕石等)を支給する。



【住民による路盤整備作業の状況】

【目標・ねらい】

- ①農林地の荒廃地化防止
- ②農村景観と自然環境の保全
- ③農林作業時の安全な通行確保
- ④住民の自立意識の醸成

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

農道等を路盤整備することにより農林作業時の安全な通行確保と利便性が図られ、農用地、森林の荒廃地化防止と農村景観の保全を保つことができた。

地域住民が自らの労力で行うことにより自立意識の醸成と行政経費の軽減が図られた。

※自己評価 【 A 】

【理由】

今後もこの事業を活用し、農村地域の環境保全に努めていきたいとの要望があり、自立の意識醸成が図られた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

農林業従事者の高齢化や後継者不足が課題となっている中で、農道・林道や水路を整備することにより農林業の利便や安全性が確保される。農林地を取り巻く環境整備が進められることにより、担い手の負担軽減が図られ、作業受託や農地の流動化が促進される。担い手の育成を図りながら荒廃地化の防止、多面的機能の維持管理に努めていきたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある